

おのきた

尾北校長室から

第 6 号

「チーム尾北」を考える～受験は団体戦

皆さん、おはようございます。新型コロナウイルスの影響で生徒の皆さん全員に話をするのは、今年度、この集会が初めてです。そこで今日は、学校全体のこと、「チーム尾北」ということについて話をしたいと思います。キーワードは、「V」、Victoryの「V」です。

早速ですが、皆さんが尾道北高校にいる目的は、何ですか？ 勉強や部活動、友達など、いくつかある中で共通するものは、おそらく進路実現ということが挙げられると思います。やらなければならないことは分かっているが、なかなか続けられないという人もいるのでしょうか。そういう人には、今やっていることは「**何のためなのか**」を改めて考えてみようかとアドバイスしたいと思います。

ロシアの作家・ドストエフスキーの作品の中に、穴を掘らせ、その穴をまた埋めさせることを繰り返すことが書かれているところがあります。自分で掘った穴を自分でまた埋めるという、やっている意味を感じられない作業とは、刑務所の労役、罰のことを言っています。穴を掘るという「すること」があっても、何のためにしているのか、という「理由」が分からなければ、それは誰にとっても辛い作業でしかありません。同じ穴を掘るのでも、例えば井戸を掘って飲み水を得るためだと分かっていたら、やる気も湧いてこようというものです。

皆さんも、やる意味はどこからかやってくる、いつか分かるようになる、という受け身ではなく、「自分で考える」という姿勢が大切です。その際に、目線を挙げ少し遠く5年先、10年先の自分をイメージしてみましょう。毎日、尾北に通っている理由について、改めて考えてみてください。

その上で、次に「**受験は団体戦**」といわれていることについて、一緒に考えてみましょう。この写真を見てください。日本の寒い冬を避けて東南アジアあたりに移動していた鳥たちは、初夏に日本に戻ってきます。こうした夏鳥たちが、きれいな「V字」の形をつくりながら空を渡ってゆくのか何とも不思議に思えて、その理由を調べたことがありました。



ミルトン・オルソンという人によると、渡り鳥がV字で飛ぶのには、渡り鳥ゆえの理由があるようです。

羽を押し下げると、その時にわずかに上向きに反転する風が起こり、後ろを飛ぶ鳥がそのわずかの上昇気流を利用して飛んでいる。その結果、単独で飛ぶよりも171%の飛行距離が可能となるようで、渡り鳥たちは、V字で飛ぶ理由を本能的に知っているということです。確かに、例えばスズメには理由がないので、スズメのV字飛行を見た人はいないと思います。

そこで疑問が湧いてきます。では、V字の要である先頭の鳥はどうか？先頭が一番疲れるので、体力のある者が担い、疲れたところを見計らって**二番手に飛んでいる鳥が時々交代**しているようです。さらに、私達にはガーガーとしか聞こえないあの鳴き声は、前を飛び鳥を**励ます掛け声**の役割を果たしているのだと

いいます。こんなことを知ると、渡り鳥たちは、実に仲良く「人間的」で、微笑ましくもあります。同じ目的と連帯意識で結ばれた仲間は、単なる「群れ」から「組織」というものになり、お互いの前に進む力が働いて、より早く、より容易に目的を達成することができる——人間社会でも動物たちの世界でも、このことはどうやら同じことのようにです。

ここで、「**チーム尾北**」の形を少し離れたところから見てみます。いくつかの小集団に分かれ、それらのいずれも3年生を先頭に2年生、1年生が続いているといった感じでしょうか？一緒に飛んでいるのは、実は皆さんだけではありません。その周りを私たち先生が、家族が、地域の人が、その他にも多くの人と一緒に飛んでいます。皆さんにはこの姿をイメージしながら、V字飛行を崩すことなく、お互いうまく風を受けながら目的地に向けて飛んでいてもらいたいと思います。

多くの人の応援の風を受けながら、そして友達同士で互いに励ましあいながら、皆さんがめざすのは、タイムではなく、目的地に向け最後まで飛び切る、ということです。それぞれの進路実現に向け、これからも「**チーム尾北**」で頑張りましょう。